

## 3年次で「プレ論理国語」を実施しました。

2月1日（水）、3年A組（中3）の国語の授業で実施された「プレ論理国語」を見学しました。授業者は、本校国語科の原田先生でした。2016年12月21日に、中央教育審議会から答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」が出され、6年後に高校国語科に「論理国語」が新設されることが決まりました。答申の128ページに次のように書いてあります。

選択科目「論理国語」は、多様な文章等を多面的・多角的に理解し、創造的に思考して自分の考えを形成し、論理的に表現する能力を育成する科目として、主として「思考力・判断力・表現力等」の創造的・論理的思考の側面の力を育成する。

今回は、「論理力」の説明の後、「記事再現トレーニング」が行われました。364字の記事を先生が3回朗読し、途中メモを取りペアワークで共有しながら、最終的に各自が10分間で完全に再現するというもので、「聴く力」「集中力」「全体を把握する力」「文章構成力」等を身に付けるトレーニングでした。振り返りの「R80」を少し紹介します。

- 小学生の時やった聞き取りテスト以来、こんなに集中して文章を聞いたことがなかった。だから、久しぶりに集中して聞いて、完全再現は難しかったけど、少し楽しかった。
- 普段は要約すればいいと8割程度しか聞いていなかった自分が、集中すればかなり書きとれた。だから、これからは、「論理力」を意識し、人の話をしっかり聞きたいと思った。
- 人の話していることを一言一句聞き取るのは想像していたよりずっと難しかった。だから、これからはもっと話を注意深く聞き、相手をより理解できるようにになりたいと思った。
- 今回の学習では、論理力をつけていくために聴く力も大切だということがわかりました。しかし、私は今回のトレーニングがあまりよくできなかったため鍛えたいと思いました。

参観していて、55分間生徒たちの脳が活性化していることがよくわかりました。京都大学の溝上慎一教授は「アクティブラーニング」を「認知プロセスの外化を伴う」と定義していますが、まさにクラス中がその状態だったと思います。つまり、集中して聴いて、書いている時も「アクティブ・ラーニング」であるということです。



◆今回の授業は、2016年8月に発行され、9月7日付けの朝日新聞で大きな記事となった、出口 汪（でぐちひろし）氏の『はじめての論理国語』（水王舎）を参考に構築されました。